

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌  
 住所:川崎市麻生区上麻生 6-40-1  
 柿生中学校内  
 電話:044-988-0004(柿生中学校)  
<http://www.kakio-kyodo.com>  
 第60号

## 「塚を訪ねて(4)

## 王禅寺東の「経塚(きょうづか)」とは

王禅寺東六丁目の東柿生小学校プール近くの角付近に、昔「経塚」があったといわれています。現在ではその面影となるものは全く見当たりません。いったいこの聞きなれない「経塚」とは何なのでしょう。

江戸時代後期に編纂された新編武蔵風土記稿の王禅寺村の項には「経塚 南にあり」と書かれていますから江戸時代からあったことには間違いのないことです。

一般的に、経塚と分かっているだけで全国に200ヶ所を超える地域に点在しています。主に北九州・近畿・関東南部の3地域に集中して存在しています。

名前から考えてもわかるように仏教の経典を地中に埋め土盛したのですが、大きく分けると次の3種類に分類されます。

- ①平安時代後期、末法思想(お釈迦さまが亡くなられて千年までを正法、二千年までを像法、それ以降一万年を末法と言い、釈迦の教えが薄くなり世の中が乱れてくると考えられていた)が流行した頃に、不安定な世の中から身を守り、大切な経典を守るために地下に埋めた。
- ②中世(鎌倉時代)以降に追善供養(死者の冥福を祈って良い行いをする事)を目的として、主に法華経を筒状の入れ物に入れて埋めた。
- ③修験者の多い地域に多く見られることから修験道に関する祭壇として追善供養のために造られた。

一般的に経塚からは経筒、瓶、壺、鏡、利器(鋭い刃物)、合子(ごうし・ごうす=焼き物や金属などでできた蓋のついた小さな入れ物)、仏像、仏具等が発見されています。特に鏡と利器は多くの経塚から共通して発見されています。東柿生の経塚については正確な資料は何も残されていませんが、「経塚である」との伝承を信じるならば、「柿生文化第46号」にも書きましたが、柿生・岡上が修験道に関する多くの条件を備えていることから③の修験道と深い関係があるものと考えてよいのではないかと思います。



ただし気掛かりなことは左の地図を見てもわかるように東柿生小学校を取り巻くように4つの塚があり、小学校の敷地からは古墳時代の高坏(右下の写真)等が多く発見され祭祀遺跡ではないかと考えられています。したがって東柿生小学校遺跡と4つの「塚」との関連も今後さらに研究する必要があるところです。



参考文献:「ふるさと語る」、「民俗学事典」(文:板倉)

## 柿生郷土史料館の活動にご支援いただいている法人をご紹介します

☆☆☆☆柿生郷土史料館友の会法人会員(4月9日現在)☆☆☆☆敬称略

- ★麻生総合病院 ★多摩日吉台病院 ★川崎信用金庫柿生支店 ★柿生恒産 ★柿生保育園
- ★考友商事 ★アルナ園 ★大平屋 ★ゲオホールディングス ★かじのや ★志田電子製作所
- ★フィッシング王禅寺 ★JAセレサ川崎 ★リック設計企画 ★月読神社 ★王禅寺 ★常安寺
- ★琴平神社 ★小料理わかば ★柿の実幼稚園 ★奈良工業 ★青戸建材店 ★スズユウ商事
- ★ノジマ NEW 鶴川店 ★丸和企画印刷 ★ガスト柿生店 ★プライマリー ★石野電気柿生店
- ★とん鈴 ★尾作住宅 ★尾作材木店 ★北島工務店 ★朝日ホーム ★レストランベル
- ★ティーエムコーポレーション

(順不同)

ご支援ありがとうございます

**お詫びと訂正** 前号「柿生文化第59号」で2か所訂正があります。お詫びして訂正させていただきます。

- ① 3ページ「私の小学校時代」著者名 正:村田和男 ← 誤:村田和夫
- ② 4ページ「第40回カルチャーセミナー」講師名 正:丸山智也子 ← 誤:丸山美智子

シリーズ  
「麻生の歴史を探る」 第30話

# 亀井六郎 ～亀井原～

小島 一也 (柿生郷土史料館相談役)

枅形城址公園の案内板に枅形・小澤・作延・井田城址と並んで亀井城の名が出ています(右上図参照)。本当に亀井城という城があったのでしょうか。あったとすれば誰が、いつ、なんの目的で築いたのでしょうか。

この亀井城があったとされる場所は現麻生区上麻生の亀井住宅付近で、鎌倉時代、源義経の四天王のひとり亀井六郎清重が北の枅形、西の小山田城に倣い、鎌倉の前衛基地として築いたと傳承されています。

この地は鶴見川を眼下に海拔50～60m、面積約2ヘクタールほどの三方が崖に囲まれた舌状の台地で、縄文時代から奈良、平安、鎌倉、室町に至る遺跡が重積し、出土品が当時(戦前)帝室博物館や遊就館(靖国神社)に展示され、周囲の崖地には多くの横穴古墳があり、歴史を秘めたところに間違いありません。

だが鎌倉時代、亀井六郎がここに城を築いたとするには疑問があります。それというのは、亀井六郎は前稿の小山田有重(小山田城)や稲毛三郎(枅形城)とは異なり、地元地縁の武将ではなく、鎌倉御家人の中にも亀井六郎の名はありません。新編武蔵風土記稿では麻生亀井の地名の項に、「亀井という人居住せしより、かくよべりともいえり」とのみ記しています。

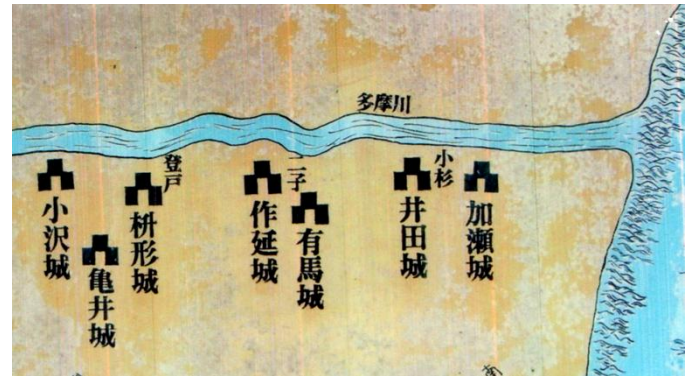
それではその「亀井という人」が亀井六郎を指すのでしょうか。それには亀井六郎の出自と、何でこの地に住んでいたかが問題になってきます。その辺のところを、文学者で郷土史の先達である登戸の丸山教主伊藤韋天翁のお説(稲毛郷土史)をお借りすると、

『平安時代末期、紀州熊野の名草郡大谷村に鈴木重宗という地持がいた。前9年の役(1051)、後3年の役(1085)に源頼義、義家に従い、武蔵の比企郡に本拠を置き、阿部氏を討って軍功をたて恩賞を得た。鈴木重宗の故郷大谷村付近は亀井とも呼んだ。したがって鈴木一族は鈴木とも呼ばば亀井とも称した。この軍功によって得た地が比企郡から鎌倉に通じる武蔵の亀井、相模の亀井野である・・・』

と述べています。成程、地誌を開いてみると埼玉県比企郡には亀井村というところがあり、麻生の亀井は上麻生の亀井と栗木の亀井。町田市境の広袴には亀井坂の名前が今も残り、相模の亀井野(小田原湘南台)には亀井神社があります。



亀井城跡(昭和62年頃)



調べてみると、紀州熊野の名草郡大谷村は、現在和歌山県海南市になっており、その市史(鈴木家系譜)によると、兄は鈴木三郎重家、弟は亀井六郎重清。鈴木家の系譜は神武天皇により穂積姓を賜り、後に熊野藤白に住して鈴木と称した熊野八莊司の家柄で、平安時代末期、この藤白から熊野信仰の比丘尼を使い全国に3万余の熊野神社を建立した総元締めの家といわれ、一族は熊野信仰の布教とともに紀伊の山国から東国に新天地を求めていたと思われます。

参考文献:「稲毛郷土史」「柿生郷土史(昭和7年)」「海南市史」

# 人々の心と生活を支えた 川崎の「講」を考える

皆さんは「講」というものをご存じでしょうか。もともと川崎の土地に先祖代々お住まいの方や地方からいらっしゃった方は「あーあれか」とすぐに「〇〇講のことだな」と思いだされることでしょう。一方若い方は「何のこと?」と首をかしげる方もたくさんいらっしゃると思います。

最近この「講」が俄然注目され始めました。それは新潮社から出版された小倉美恵子氏著の『オオカミの護符』

に登場する「御岳講(みたけこう)」と映画監督の由井英氏が制作されたDVD『うつし世の静寂(しじま)に』に登場する「念仏講(ねんぶつこう)」から受けたメッセージがきっかけでした。

「講」は戦前までは全国的に存在し、地域社会にとって大切な役割を果たしていました。左の表は川崎市で昭和60年に川崎市内の町内会組織588団体にアンケート調査をし、「講」が存在する157団体から寄せられた回答をまとめたものです。これを見ますと、川崎市では「念仏講」「稲荷講」「武州御岳講」「大山講」の数が多いことが分かります。

「講」は同一の信仰を基盤に置く者同士が結成して月々決まった日に集まり、掛け軸を掛けて神仏を祀る「御岳講」「念仏講」のようなものと、一方、**経済的動機**のものでお金を出し合っ

て基金とし、何か必要となったとき講からお金を融通してもらうという「頼母子講」「無尽講」のようなものと大きく分けて2つの種類からなっています。信仰を基盤とする「講」の種類は大変多く、日蓮宗の「題目講」「地蔵講」等の仏教系と、「伊勢講」「秋葉講」「稲荷講」のような神道系のもの、「富士講」「御岳講」等の山岳崇拜のもので修験道の色彩が強いものなどがあります。

江戸時代には大概の村人はいずれかの講に所属し、複数の講に所属している人もいました。一体これらの「講」は現代人にどんなメッセージを発信しているのでしょうか。(次号に続く)

参考資料:「川崎市史」「日本民俗事典」「オオカミの護符」(文:板倉)

川崎市内の「講」の分布(昭和60年調査)

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	合計
町会数	26	19	36	25	14	22	15	157
念仏	10	7	17	13	6	16	14	83
題目	0	7	4	8	1	4	3	27
地神	0	3	6	3	6	3	7	28
庚申	0	0	4	2	2	0	0	8
稲荷	12	11	19	10	13	13	5	83
二十三夜	0	0	0	3	0	0	0	3
大山	5	1	21	10	9	6	1	53
武州御岳	4	1	21	15	10	6	4	61
富士	1	1	3	0	0	1	0	6
榛名	0	0	0	0	3	4	3	10
秋葉	0	1	0	2	0	0	2	5
三峰	2	1	1	0	1	3	0	8
古峯ヶ原	0	2	1	0	0	0	0	3
伊勢	0	5	3	1	0	1	0	10
成田	2	0	5	0	0	0	0	7
道了尊	1	0	0	0	0	0	0	1
木曾御嶽	1	0	0	0	0	0	0	1

注:町会数は該当の講があると答えた町会の数を示す

\*\*\*\*\*

## ●●●平成25年度●●●

### 柿生郷土史料館「友の会」新規会員募集

柿生郷土史料館は学校と地域の方々の方によって支えられている『地域の博物館等施設』です。

現在具体的な活動は地元の方々による支援委員会とボランティアの皆さんです。

日々の活動は週一回の開館と毎月発行の機関誌「柿生文化」、年6回実施される「カルチャーセミナー」と「特別企画展」、古文書講読などの「特別講座」の開催、です。これらの事業の運営は支援委員やボランティアの奉仕活動によって実施しており、事業推進のための経済基盤は「友の会」の会費から成り立っております。

つきましては事業の継続と一層の発展のためには、地域の皆様の「友の会」入会によるご支援が必要となってまいります。

なにとぞ趣旨をご理解のうえ、より多くの方々のご支援ご参加を賜りたいと存じます。

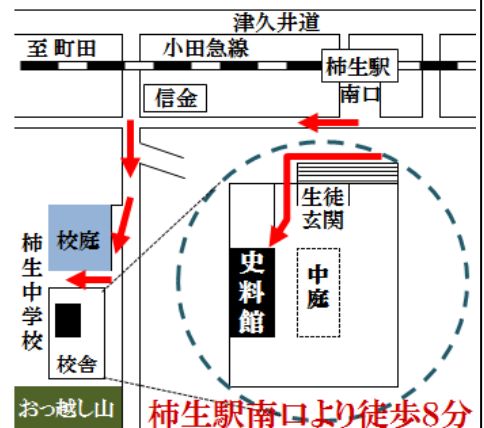
- 会員特典
- ・川崎市近隣地域博物館等施設の特別展などのご紹介
  - ・発掘現場等の遺跡見学会の優先参加
  - ・機関紙「柿生文化」を毎月ご自宅にお届け

- 会員の種類と年会費
- ・一般会員 2,000 円(1口)
  - ・賛助会員 3,000 円(1口)
  - ・法人会員 10,000 円(1口)

会員資格

- ・4月～翌年3月までの1年間(年度単位)

- 申込方法
- ・柿生郷土史料館にて直接お申込みいただく(開館時のみ)
  - ・葉書に「友の会入会希望」と書いて住所・氏名・電話番号および会員種を記入の上投函いただく(会費納入方法は折り返しお知らせいたします)



カルチャー・セミナー関連記事

15世紀中頃ヨーロッパ

活版印刷技術の大発明が世界の歴史を変えた

→ → → 日本史にも大きな影響が! ← ← ←

ドイツでは1450年頃グーテンベルクの新しい活版印刷技術の発明により当時のヨーロッパ世界が文化・宗教・政治的に大きく変化することになりました。

それ以前にも活版印刷は行われていましたが、大変手間のかかる作業でした。しかし新しく発明されたものは金属の活字を利用し、さらに印刷機もブドウを絞るための道具にヒントを得て作られたもので、印刷面もきれいにでき、さらに大量に印刷することが可能となりました。

それまでは聖書も手書きのものが多く、紙も羊の皮でつくった羊皮紙が使われていて簡単には一般庶民の手に入るものではありませんでした。しかし新しい印刷技術の発明により、キリスト教の聖書や当時の協会批判に関するパンフレットであるルターの「95カ条の意見書」なども大量に出回りました。

このような動きがきっかけとなってキリスト教会は今までのカトリック教会(旧教)と新しいキリスト教会のプロテスタント(新教)に分裂してしまいます。やがてカトリック教会はプロテスタントによって失われた布教地を回復すべくアジア・中米・南米に進出していくわけです。そのような動きの中で1549年、ザビエルが日本に来航してキリスト教を広めることになるわけです。(文:板倉)

柿生郷土史料館開館日のご案内

◎開館日:奇数月は日曜日、偶数月は土曜日

5月 12・19・26日(5日を除く毎日曜日) 注:5月5日は休館です 6月 8・15・22・29日(毎土曜日)

◎開館時間:午前10時～午後3時

柿生郷土史料館5～6月の催物のご案内

第3回 実物のミニ歴史資料展

(5月・6月)

「活版印刷技術が世界史を変えた!」

主な展示資料 『フランス14世紀羊皮紙手書き時祷書』『15世紀活字印刷(インキュブラ)の時祷書』『16世紀聖書』『イタリア1745年のグレゴリオ聖歌集』 他

内容 15世紀半ばドイツのグーテンベルクが発明した活版印刷機は人々の情報量を飛躍的に伸ばすことになりました。このことが15世紀の宗教改革、17世紀から始まった市民革命など世界の様子が一変するきっかけとなりました。今回は発明以前の羊皮紙による聖書、発明から約20年後に印刷(インキュブラ)された聖書や1500～1600年代に作成されたヨーロッパの資料を展示いたします。

公開日 5月 12・19・26日(5日を除く毎日曜日) 6月 8・15・22・29日(毎土曜日)

第40回 カルチャー・セミナー

「1745年のグレゴリオ聖歌が再現された」

～♪♪♪中世ヨーロッパの面影を残す四線譜の音色を復元♪♪♪～

・復元作業と講師:丸山智也子氏(二期会会員)

・日時:平成25年5月26日(日)午後1時30分～ ・会場:柿生郷土史料館特別展示室

・内容:復元した聖歌の講師による実演と、約300年前の聖書の展示(手に取って実感下さい)

第41回 カルチャー・セミナー

川崎市教育委員会・麻生区役所・宮前区役所後援の予定

川崎ふるさと再発見 そして未来へ! プロジェクト第1弾

シンポジウム 「御岳講フォーラム」

・パネラー:小倉美恵子氏(ささらプロ、「オオカミの護符」著者)

由井英氏(映画監督、「うつしよの静寂に」制作)

服部博美氏(御岳神社御師)、服部一喜氏(御岳神社御師)

・日時:平成25年6月22日(土)午後1時～

・会場:JAセレス川崎柿生支店 3階ホール

・内容: \*オオカミの護符が発信しているメッセージは何か

\*村人にとって御岳講とは何だったのか、人々とのつながりとは

